

Mag. Naturv. Christiana 51: 165-204. Řehaková, H. 1969. Die Variabilität der Arten der Gattung *Oocystis* A. Braun. Stud. in Phycol. ed. by Fott: 145-186, Prague. Reisigl, H. 1964. Zur Systematik und Ökologie alpiner Bodenalgen. Österr. Bot. Zeitschr. 111: 402-499. Smith, R.L. and H.C. Bold 1966. Phycol. Stud. VI. Investigations of the algal genera *Eremosphaera* and *Oocystis*. The Univ. Texas Publ. No. 6612, 121 p. Austin. Watanabe, S. 1977. The genus *Chlorella* from Japanese soils. Journ. Jap. Bot. 52: 97-106, 129-136, 169-178.

* * * *

京都大学構内と滋賀県のアカマツ林の土壌から *Oocystis* 属の2つの緑藻を分離した。第1の緑藻はすでに汽水から記録された *O. minuta* と同定された。第2の緑藻は第1のよりも細胞が大きいことと多くの空胞があることで区別できるので、*O. minuta* var. *vacuolata* の名を与え、新変種として記載した。属内の他の種とは異り、この種と *O. polymorpha* では母細胞の細胞壁がふくらむことはなく、自生胞子と母細胞とは密着している。この特徴により、Fott & Řehaková (1963) は *Oocystis* 属と *Siderocelis* 属とを区別している。この定義に従えば、上記の2種は *Oocystis* 属から除外されるべきと考えられる。それらに分類学的位置を与えるためには、*Siderocelis* 属にみられるイボ状突起を種段階の特徴とみなして、この属に含める場合と、属段階の特徴とみなして、円型の細胞をもつ *Chlorella* 属と紡錘型の細胞をもつ *Keratococcus* 属もしくは *Closteriopsis* 属の中間の形態的特徴をもつ新属をたて、それに含める場合とが考えられる。

○高等植物分布資料 Materials for the distribution of vascular plants in Japan

96 エゾオオヤマハコベ *Stellaria radians* L. (New to Central Honshu) 本種は牧野・大井・北村博士等の著書では、北海道だけが国内の産地としてあげられている。しかし東大腊葉室には早くから陸奥、野辺地(木梨延太郎 Aug. 1911)の標本があり、水島博士は本誌 40: 254 (1965) で「本州では青森県に一産地がある」と記された。ところが本年10月、はからずも長野県軽井沢町塩沢の路傍で、佐藤邦雄氏が開花中の本種を見出された(標本は TI)。葉は幅広く、樺太産で名付けられたヒロハエゾオオヤマハコベの形に一致する。生育地が路傍であるので、他所から人為的に移入された可能性も考えてみたが、これを裏付けるような要因は何もなかった。一方この地方からはエンビセンノウ、ハナヒョウタンボク、ヤマタバコ等の稀品の自生が知られているので、本種も自生とみてよいように思われる。とにかく今迄知られていた産地からは遠く離れているので、ここに記録しておくことにした。(原 寛 Hiroshi HARA)